metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE
provided by KANAGAWA University Repo

神奈川大学21世紀COEプログラム
「人類文化研究のための非文字資料の体系化」研究成果報告書
Report on the Results of "Systematization of Nonwritten Cultural Materials for the Study of Human Societies" Kanagawa University 21st Century COE Program

日本近世生活絵引

北海道編

Pictopedia of Evevryday Life in Early Modern Japan compiled on Southern Hokkaido

神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議
The Kanagawa University 21st Century COE Program Center

まえがき

歴史研究は文字で書かれた資料を用いて研究してきました。あたかも文字以外の資料は存在しないかのような態度がとられてきました。教科書などにも多くの図像が挿入されていますが、それらは挿絵にすぎません。ところが近年の歴史研究は違います。絵画や地図を歴史研究の資料として積極的に位置づけ、それらを読み解くことで歴史像を形成する努力が一般化してきました。しかし、文字資料による研究が一字一句をないがしろにせず、個々の事項を厳密に解釈するほどには、図像の描く事物を厳密に把握することはいまだ行われておりません。

先輩たちが編纂した『絵巻物による日本常民生活絵引』全5巻は、字引に対応するものとして絵引という新しい概念を作り出し、図像を歴史研究の資料として活用できるようにしました。具体的には、中世に制作された絵巻物に描かれた事物や人々の行為に名称を与え、図像からその内容を知ることができるようにしました。大変貴重な成果であり、今や日本中世を研究する際には座右に置くべき存在になっていると思います。

この素晴らしい研究成果の継承発展を21世紀COEプログラムの一つの柱にし、三つの課題を設定しました。①『絵巻物による日本常民生活絵引』を世界的に利用できるようにするマルチ言語版の編纂、②中世の絵巻物による絵引を発展させた、日本近世生活絵引の編纂、また③絵引という方式が日本以外の文化でも可能かどうかを検討する東アジア生活絵引の編纂です。本書は、②日本近世生活絵引の1巻です。

北海道は中世に蝦夷が島と呼ばれ、近世には和人の進出した道南地域を除いて蝦夷地と呼ばれていました。近世、蝦夷地は本来アイヌの人々の生活する世界でしたが、和人が侵入し、支配するようになっていきました。早くからその拠点となった地域が松前です。近世後期には、アイヌの人々の生活、また和人たちの生活を描いた図像が描かれるようになりました。それらはアイヌの人々が自ら描いたものではなく、むしろ描くことをタブー視してさえしていましたから和人の絵師や文人の描いた作品で、客観的な描写とは言えない面が多々あります。しかし、アイヌの人々やその生活を知るための欠かせない貴重な資料であることは言うまでもありません。

本書は、近世の北海道におけるアイヌの人々や和人の生活を描いた図像による絵引の試案本です。図像は制作年代や場所、状況ができるだけわかるものを重視しました。Ⅰ菅江真澄の民俗図絵（『蝦夷喧辞辯』『蝦夷廼天布利』など）、Ⅱ央斎『模地数里』、Ⅲ『江差檜山屏（乾）上ノ国材木流之図、（坤）江指浜鰊之図』（年代、作者とも不詳）屏風の3つを対象としました。本書は絵引としての事項キャプションは必ずしも多くありません。むしろ図像全体との関わりから読み解くことに努力を傾けました。

編纂作業は1班の共同研究を基礎にして2名の担当者が行いました。編纂過程では多くの専門研究者に支援を仰ぎ、教示を得ました。皆さんの協力があってはじめて完成した絵引です。お力添えしてくださった皆さんに改めて深く感謝申し上げます。

2007年12月

神奈川大学21世紀COEプログラム第1班代表
福田　アジオ